

平成 20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査  
瀬戸内海海ごみ対策検討会 合同専門部会 (2009. 1. 22)

参考資料－1

高梁川がむすぶ「うみ・まち・やま」シンポジウム

アンケート調査結果

平成 20 年 1 月

実態把握専門部会・発生抑制専門部会・回収処理専門部会



## 1. シンポジウムアンケート調査結果

### シンポジウム概要

開催日時：平成20年12月21日（日）

場所：倉敷市玉島公民館大ホール

内容：これまで行ってきた海ごみ対策の調査・検討結果や海ごみ回収の先進的な事例の紹介をするとともにうみ・まち・やまに関わる方とのパネルディスカッションをおいて海ごみについて考えるシンポジウムを開催した。

また、基調講演では、当時は女優の東ちづるさんに本シンポジウムテーマでもある、故郷の瀬戸内海への思いや、プライベートで活動しているボランティア活動（16年前から活動している骨髄バンク・ドイツにある戦争で傷ついた子供たちを母国へ帰す活動をしているドイツ平和村）についての講演をしていただいた。また、どうしてボランティア活動をすることになったのか、そして、ボランティアを通しての人と人の関わりなどについてもあわせて話ををしていただいた。

### アンケート調査の方法

本シンポジウムでは、海ごみへの理解や一般市民への周知方法等を検討するためにアンケート調査を実施した。アンケートは、入場者に直接配布し、シンポジウム終了時に回収した。

なお、アンケートの質問事項は、以下の通りである。

## アンケート票

平成20年12月21日

このたびは、「うみ・まち・やま」シンポジウムに御参加いただき誠にありがとうございます。このアンケートは、今後海ごみの普及啓発を広く行い、引き続き美しく豊かな瀬戸内海を守っていくための取り組みに役立てるために実施するものです。皆様の御協力をお願い致します。

1. あなたの年齢 ( 10代 20代 30代 40代 50代以上 )
2. 御職業 ( 自営業 会社員 公務員 学生・生徒 主婦 その他 )
3. 性別 ( 男 女 )
4. 自分の町のごみの分別方法を知っていますか?  
( 理解している おおよそ理解している 自信がないが理解していると思う 知らない )
5. 海にごみがあることを知っていましたか?  
( 知っていた 知らなかった 海の底にあることは知らなかった )
6. 生活によく使うようなものが、ごみとして海底にあることをどのように思いますか?  
( 大変問題だと思う 問題だと思う 何も思わない )
7. 大変問題だと思う・問題だと思うに回答した方は、なぜそのように思いますか(複数回答可能)  
( 海が汚れる 魚がいなくなる 海の生物に影響がある 見た目が悪い  
その他【 】 )
8. 漁業者が海底のごみを持ち帰っていることを知っていましたか?  
( 知っていた 知らなかった )
9. 知っていたと答えた方は、なぜ知っていましたか?  
( 自自分が漁業者だから 親類が漁業者だから テレビ・新聞で見たことがあるから  
近くに住んでいるので取り組みを知っていたから 関係者だから  
その他【 】 )
10. 海ごみを実際に引き上げる船に乗るエコツアーがあるとしたら、子どもさんと一緒に乗ってみたいですか?また、いくらまでならば参加費用を払おうと思いますか?  
( 乗りたい ( 円 ) 無料なら乗りたい 乗りたくない )
11. このシンポジウムを何で知りましたか?(複数可)  
( テレビ ケーブルテレビ ラジオ 新聞 HP メーリングリスト  
知人からの紹介 その他 )
12. 今回のシンポジウムの御感想、御要望、御意見などがありましたらご記入下さい。  

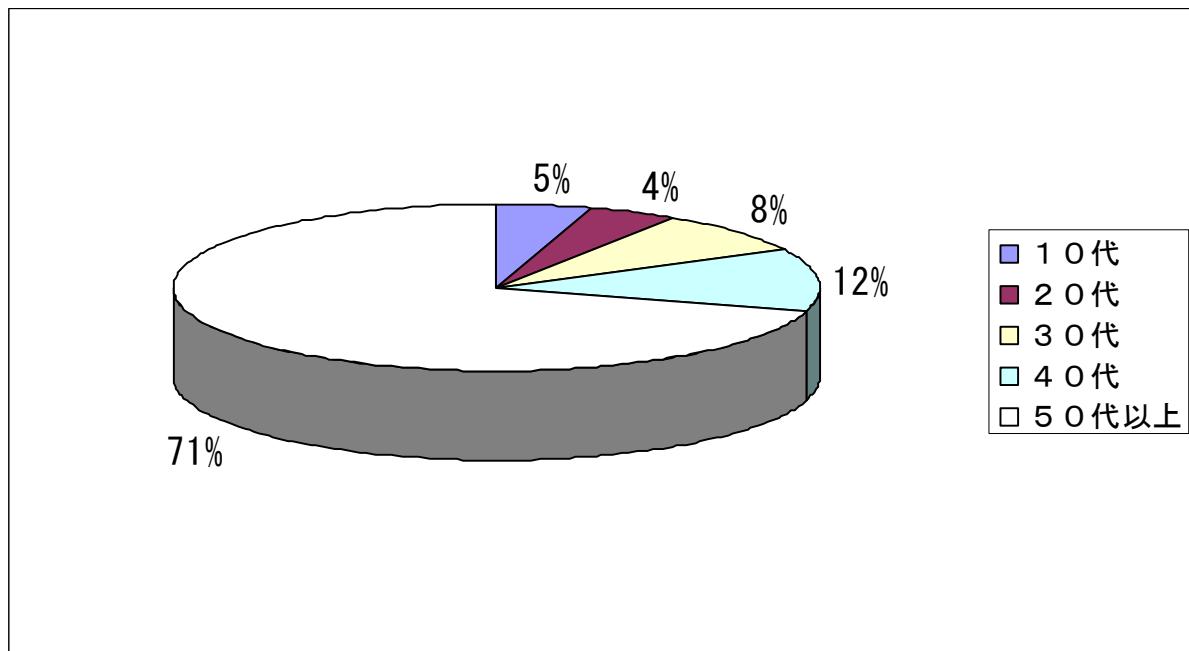

以上、御協力ありがとうございました。  
環境省中国四国地方環境事務所

## アンケート調査の結果

シンポジウムの参加券の配布者数は、合計 283 名であった。詳細の人数は把握できていないものの、会場の規模等から推測するに 300 名から 330 名程度の来場があったものと考えられる。

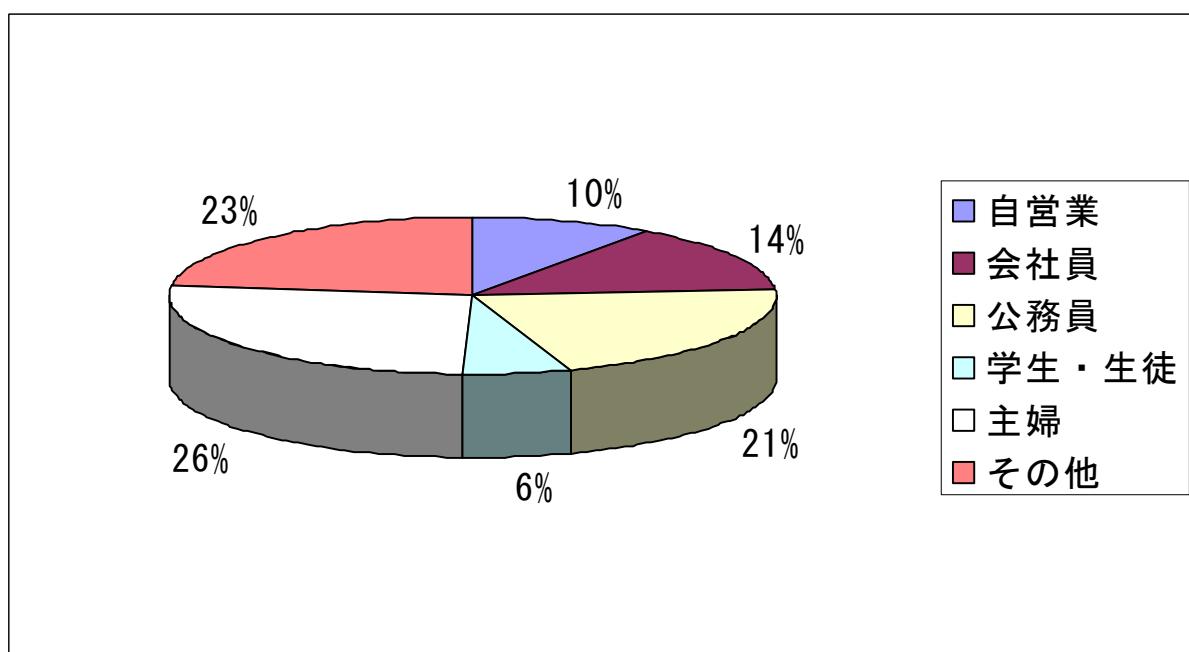
アンケートは、合計 210 名から回収した。アンケートの結果は以下のとおり。

### シンポジウムに参加した年齢



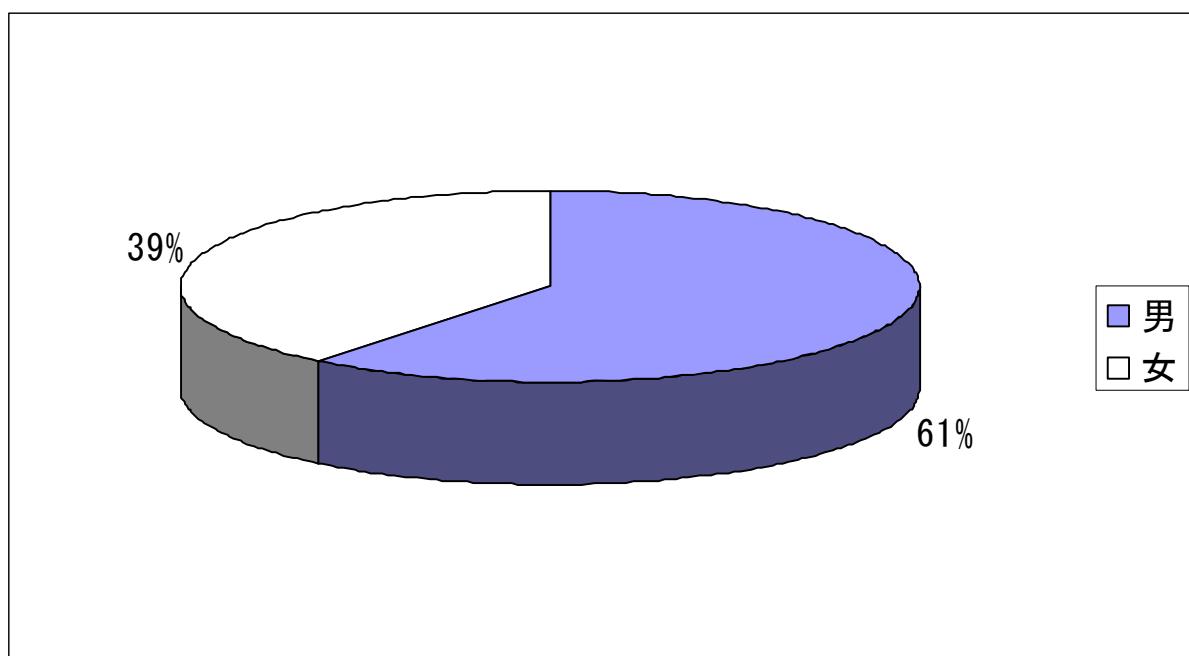
回答数：207

### 職業



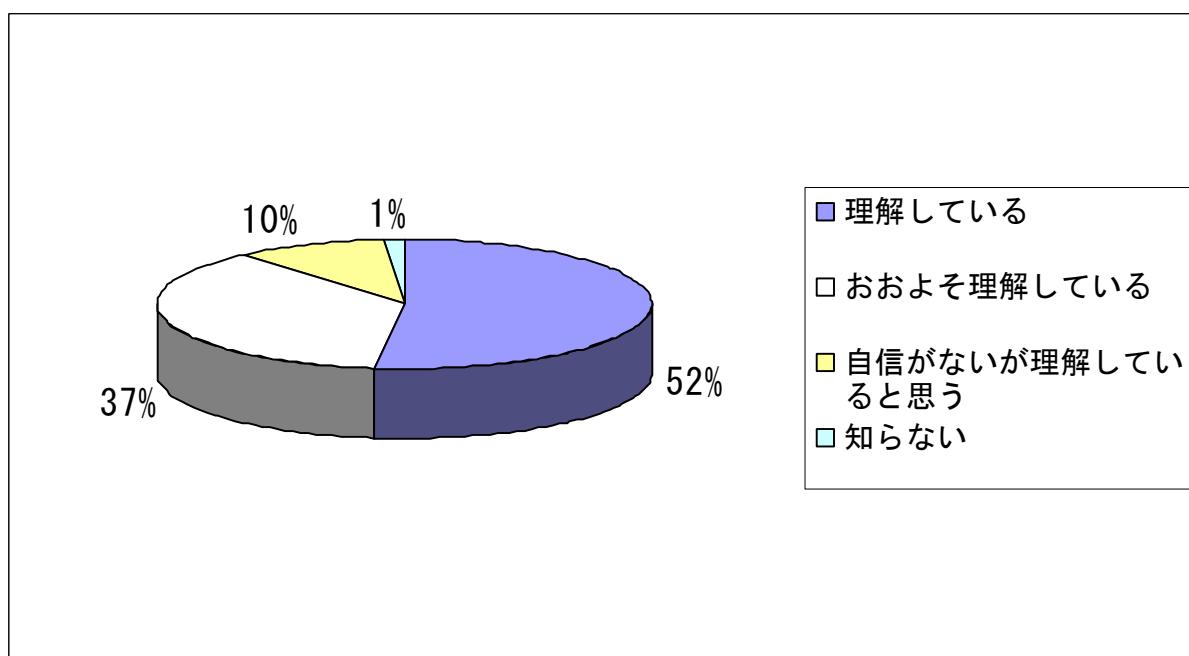
回答数：208

## 性別



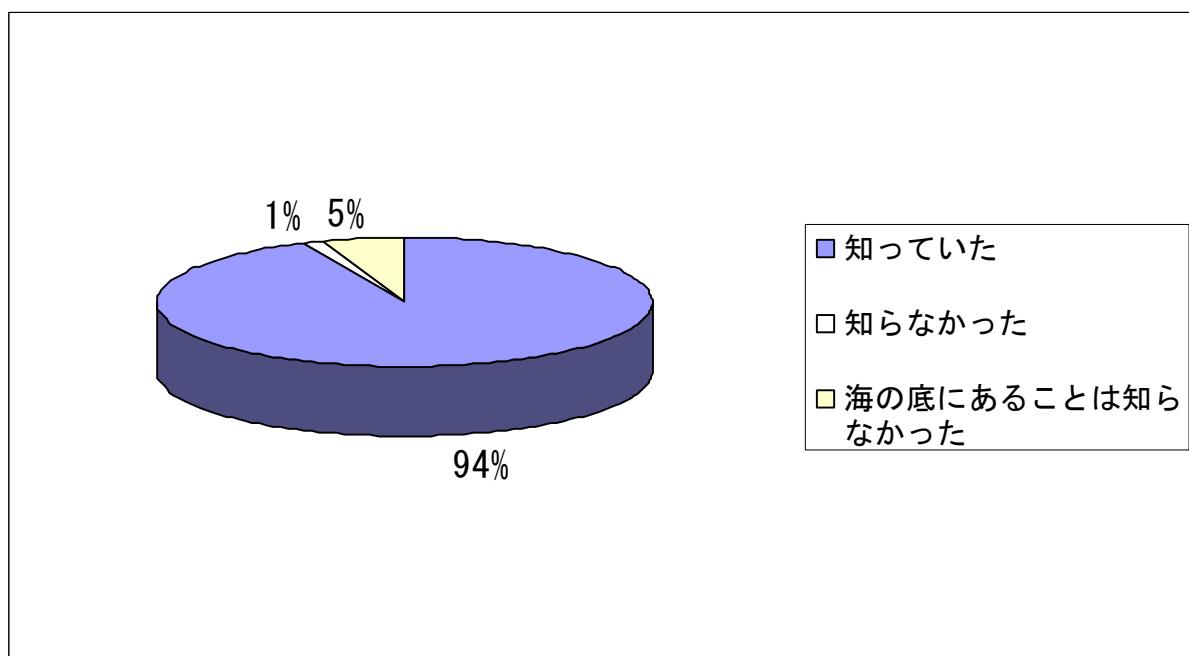
回答数 : 209

## 自分の町のごみの分別方法への理解



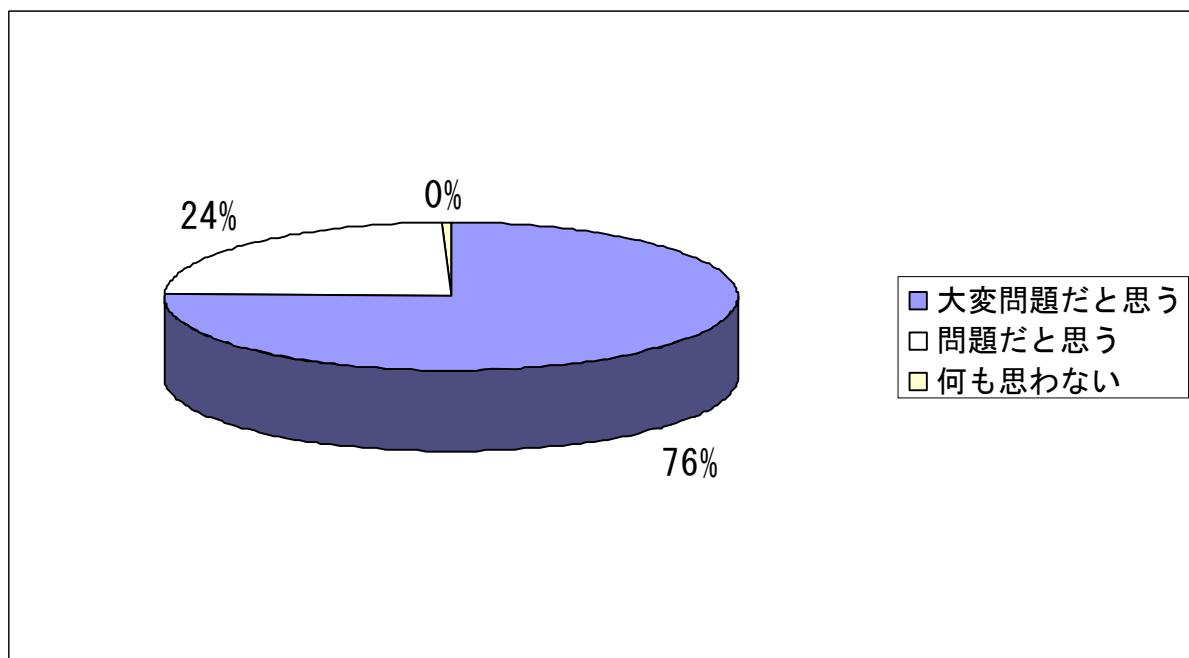
回答数 : 208

## 海のごみについての理解



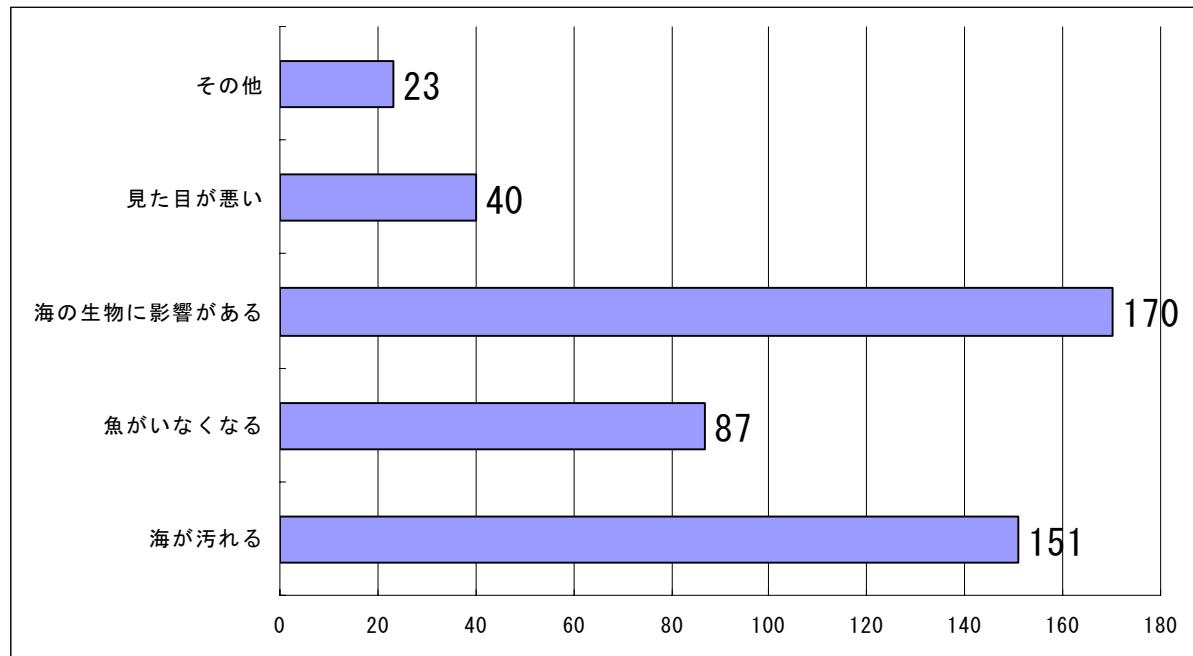
回答数 : 209

生活によく使うようなものが、ごみとして海底にあることをどのように思うか？

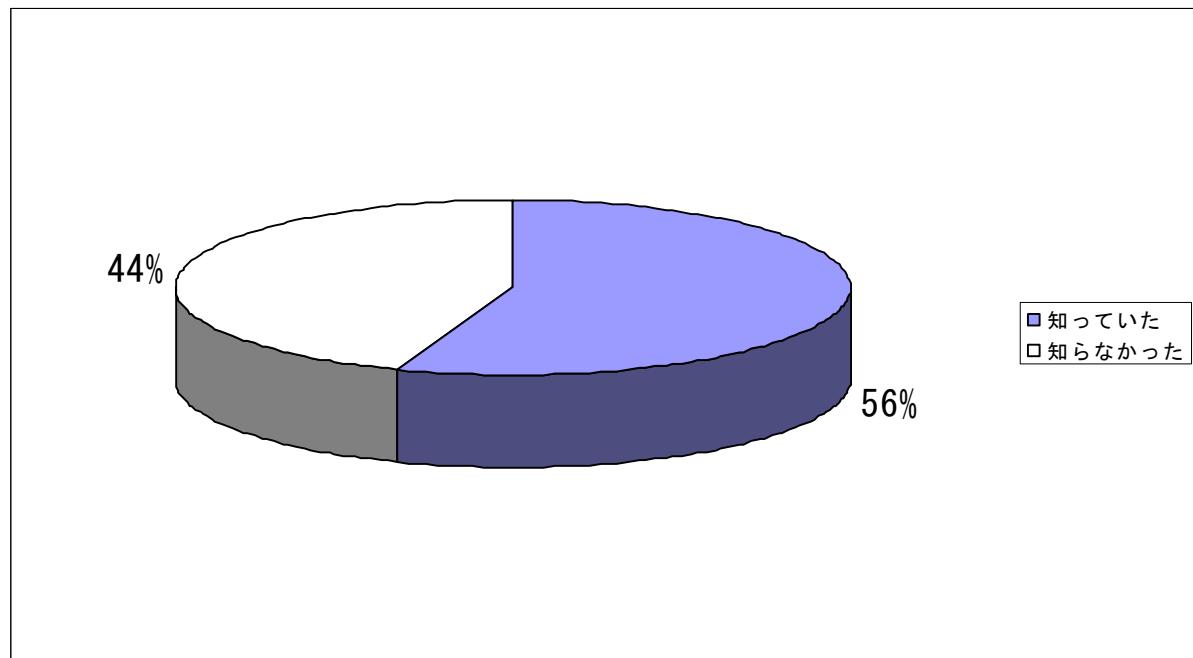


回答数 : 209

## 大変問題であるとした理由（複数回答）

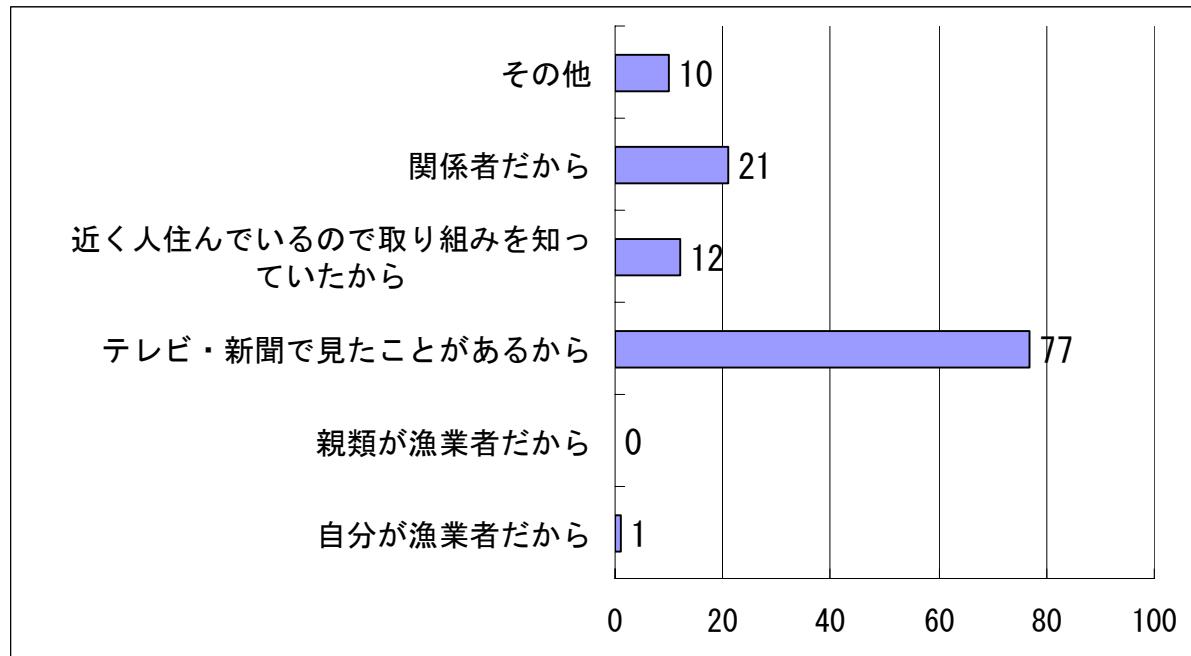


## 漁業者が海底ごみを持ち帰っていることを知っていたか？

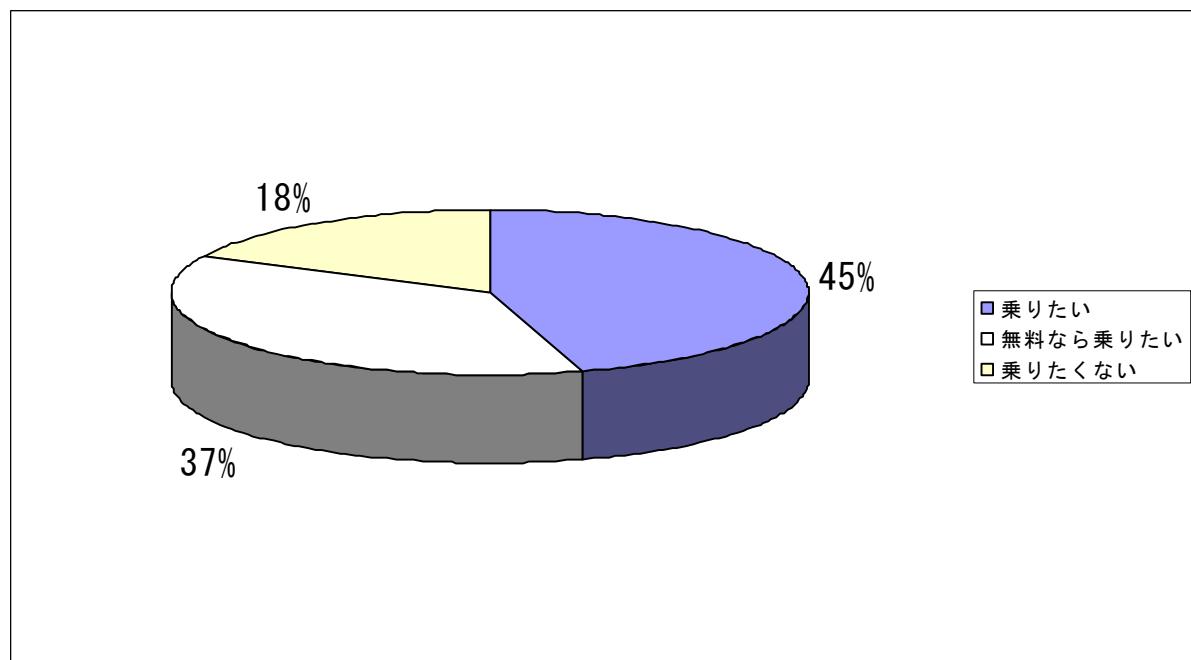


回答数：205

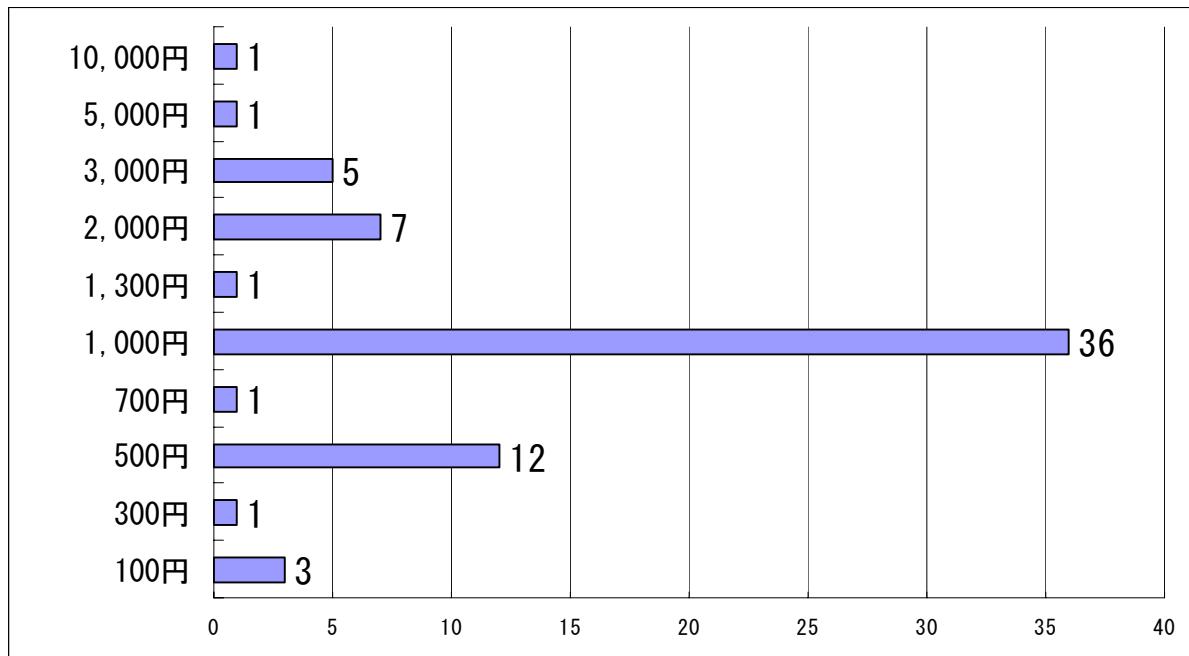
### 漁業者が海底ごみを持ち帰っているのを知っていた理由（複数回答）



海ごみを実際に引き揚げる船に乗るエコツアーがあるとしたら、子どもと一緒に乗ってみたいか？また、いくらまでならば参加費用を払うか？

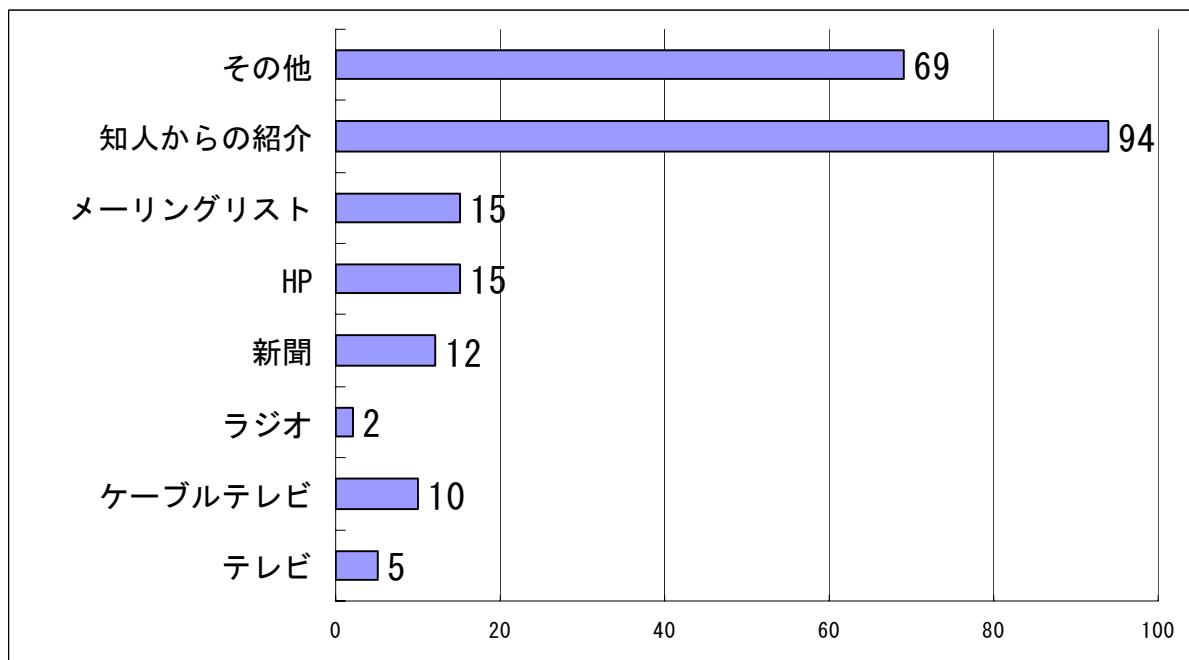


回答数：181



回答数：68

#### このシンポジウムを何で知りましたか？（複数回答）



#### 今回のシンポジウムの感想・要望・意見など

<シンポジウムのよかったです点に関するコメント>

引き続き来年も希望致します。海ゴミの現状が大変良く理解出来ました。
官民一体となって取組む事が大事と思う。
講演が、心に感じる内容で良かった。
生命の誕生も始めは海からですので、この大切な地球の原点である海を守るために人間はゴミ問題・環境問題に取り組んでいかねばならないと思います。環境省の大蔵をお迎えしての今回のシンポジウムは大変意義のある大会だと思いました。
大変貴重な時間となりました。ありがとうございました。啓発活動の必要性を強く感じた。やはり教育活動、特に学校教育が果たす役割が大きいと思う。しかし、残念ながら教育現場への情報や研修機会が少ない。
とても役立つ情報だった。人間はゴミを自分で処理する事ができないのにポイ捨てをしそのゴミで自然がくずされ又人が回収しなければならない。モラルを持ってゴミを分別し捨ててほしい。東ちづるさんはとてもバーチャリティのある人で勇気や元気をもらいました。
環境を守っていくことは大事なことだと思う。今回のシンポジウムに参加させて頂き、思っていた以上に保護にいかなければないと感じた。
大変有意義な会でした。
大変、有意義だった。東ちづるさんの講演には心をうたれた。環境についても身近な出来ることからやつていきたい。
非常によかったです。こういう活動をこれからも続けてほしい。学生にも出来ることを見つけ、多くの人を集めて瀬戸内海を守りたい。
海ごみというものの現状を知ることができました。個々ができる事をやっていきたい。そして他の人にもつたえていきたい。
今回のような会に初めて参加させてもらいました。色々なお話を聞かせて大変よかったです、
本日はどうも有難うございました。家庭のゴミの資源をもっと生かせば家庭ゴミやペットボトルも海に流さないようになる。川の水が海に栄養を与えることはこの年に成ってわかりました。
環境問題には関心があります。この様なシンポジウム大いに実施していただければと思います。関係者の方々にありがとうございました。ボランティア・サービス・チャリティーとは何か改めて教えさせられ、理解しました。
日常あまりきけないお話をうかがってよかったです。ゴミ問題をもっと考えるよい機会だったと思います。
漂着ごみについて研究しているのでとても興味深く、共感できました。「なるほどな！」と新しい発見もできましたし、"これからすべきこと"も見えてきて、参加してよかったです！！
今回、海底ゴミのシステムを学ぼうとこのシンポジウムに参加しました。漂着ゴミの研究をしていますが漂流ゴミ、海底ゴミの存在と関連性を知ることができました。とても勉強になったし、自分の知識としてこれからも役立てていかないといけないと考えさせられました。海ゴミの現状を自分の目でぜひ見てみたいと思いました。「知る」ことがます大切だと改めて分りました。ありがとうございました。
大変、勉強になった。
小さなことですが、レジ袋を使わない・道のごみを拾うことからこつこつとやっていきたいと思いまして、東さんの講演もとても感動的でした。したいからする、対等な関係、心に残る言葉でした。

<シンポジウムの悪かった点に関するコメント>

駐車場が遠くて時間に遅れてしまった。雨の中を歩かされて最初のへたくそなプレゼンの時間にねてしまった。参加券を発行するなら指定席にしたらどうですか。里海もですが人間は海の中では生きられないで里山のほうがさらに大切であると私は考えている。
大臣が来られるレベルであれば、会場はあまりにお粗末だったのではないかと思う。また、東さんのお話は大変良いものだったと思いますが、シンポそのもののテーマとは合致していないかったと思います。さらに前後の2つの報告は必要ではあったのでしょうかインパクトが弱く、登壇者のプレゼンが下手で、理解しづらい感がありました。
パンフの中で本日の予定表がない。東の講演もボランティアの精神が分ってよかったです。シンポの中で数字が出て理解し易かったです。
資料が見にくい。
時間が長過ぎる（年末に3時間半は長い）会場の地図がわかりにくい。水・海etcの関係者が少ない（広報不足）シンポジウムの内容と講演会の内容が合わない（副題の意味は？）パネラーの人数が多いと思った。もっと広い会場（机のある）で多くの人を集めても良かったのでは。
レジュメがなく進行がわからなかった。配布資料もわかりにくい。底引きなどでは、ごみを引き上げてもまた捨てているのを何度も見たので持つて帰っているとは思わなかった。基調講演で故郷の海に想いをよせての部分が少なすぎたと思う。パネラーではなく、パネリストでは。パネリストが多過ぎた。
レジュメがないので最初のうちプログラムの進行がよくわからなかった。東ちづるさんのお話はほとんど今日のテーマとは無関係だったけれども、とても上手いし、内容も感動的よかったです。パネルディスカッションも悪くはなかったが、パネリストが多すぎる。
公共交通機関の時刻表を考えた終了時間の設定をお願いしたい。
もっと一般の方にPRできるように工夫して、たくさんの方に聞いてもらえたよかったです。
玉島・児島の漁業者の出席がないのはさびしい。海底の汚れがよく分った。安全な健康な魚類を育てることが大切です。住民の理解と協力が必要です。
県行政からのパネラが出ていないのはどうか？瀬戸内海の関係は県が中心に考えさせる必要があると思う。
最初の「海ゴミ」の説明がおもしろくなかった（下手）東さんの話は良かった。
この様なシンポジウムは回数を増やしてやってもらいたい。
インターネット、ファックス等の使用不得意な人間で、申し込み方法にとまどった。
会場が悪い。市民協動のシンポジウムになっていない。
たいへん良かった。東さんのボランティアの話が良かった。また開催してほしい。シンポジウムはもっとメリハリのある〇〇にしてほしかった。（一部解読不可）

<シンポジウムのよかつた点・悪かつた点の両方を記載したコメント>

海ゴミについて知っている人が意外にいたことに驚いた。東ちづるさんの講演会楽しかった。休憩の時間が短いと思う。

海ゴミの問題と沿岸の市だけでなく、高梁川を軸に考えていくことは大変大切なことであると思います。〇〇市、〇〇市の参加もほしかった。研究者だけでなく、自治体や漁業者もパネリストに入っていたことがよかつた。展示物は海ゴミそのものを屋外に置いてほしかった。このような横のつながりを広げるような企画が今後大切だと思う。子供達の教育に向けた視点がほとんどなかつたのが残念。

環境大臣が来られてよかつた。環境省の人（最初の講演）は、もっとプレゼンテーションの準備（練習）をしてくるべき。講演のプロではないので多くを期待するわけではないが、大臣もご臨席の会でのプレゼンとしては不出来。講演の技術のみならず、内容も「上から目線」が目立ち、またやる気がホントにあるのか、来場者を甘く見てはダメ。尾道市的人はまずまず可。東ちづるさんの話は期待した以上でした。すばらしいです。「ごみはある意味で資源」磯部先生の言ですがその通りだと思います。そのとき、有価物であれば漂着物といえども勝手に持ち帰ることが法に接触する可能性もあります。青森でハタハタの卵を海底から持ち帰った人が検挙されました。法令上の整備も必要と思います。

<シンポジウムや海ごみに対する要望・希望・期待・思い・質問・提案など①>

来年も当地、玉島開催を希望する。

PET・缶・ビンの販売をデポジット制にしてほしい。レジ袋の有料化を法律で義務付けてほしい。このような催し物をたびたび開催して行政・学会・住民の一体感を向上させてほしい。

清掃専門船をつくれ。高梁川の湖止の上にゴミ回収システムの網か何かをつくれ。

海のゴミは市民の生活ゴミであることから、市民のゴミ不法投棄を無くすことである。そのためには長期に亘る教育学習が必要ではないか？ 行政はこれに対する取り組み（資金、人材、施設）をしてほしい。目先の対処療法でなく根本的に本気で取り組んでください。（一部解読不可）

啓発事業は大切なことだと思うので回を重ねて欲しい。しかし、せっかくの機会なのでしっかり周知の努力をしっかりして欲しい。

瀬戸内海の再生に向けて関係者が問題を共有しそれぞれが主体的に取り組むことが必要だと思いますが、ルールや経費の支援、推進母体（組織化）など、まだまだ十分ではないと思います。海ごみ対策を通じ豊かで美しい瀬戸内海が取り戻される機運が高まることを期待しております。頑張りましょう。

自分の知らない所でさまざまな対策などがされていたり、研究がされているのが分かり、関心がわいた。今一番必要と思われる私達一般人が何か環境についてとりくめることは何ですか。

環境月間にも合わせて行なって欲しい。地元マスメディアを最大限活用してもらいたい。参加者とは、どんな意味があるのですか。参加することへの意義の向上、事務的なことですか。電気と紙、環境負担？

海ゴミで大きな%を占めるプラスチックゴミ。自分達が捨てないのは当たり前として、何かできないかと思います。又、海底にたまっているゴミ。見えないだけに、本当に今から何かしていかなければと思います。特に海底ゴミの処理に関しては行政側の仕事が大切だと思います。こういうゴミ処理はあまり利益が出ないのでぜひ行政主等でがんばってほしい。財政大変だけど、メリハリをつけてがんばってほしい。きれいでできるのは人間だけだからと思います。

海ごみを受け入れる自治体に、国からの助成等はないのでしょうか？

山陽女子高校では海底ゴミの回収活動を行い、回収物を授業で生徒に示したりなど、回収や発生抑制を行なっていますが、これから社会走出去する高校生も対してどのような教育ができるでしょうか。ご意見をお聞かせください。

パネルディスカッションでは、色々話をしていたが、より方向性を出し、なお具体的な方策がまだ構築されずたらいまわしの情報から抜け出せていない。〇〇のような自主性のある方針を国・県・市、それぞれ各自の状況での〇〇を出せればと思う。漁業の被害はあるか、より自分達の職場環境を伴うという意識が必要だとも思う。今までの甘やかされた漁業活動から脱却し、自主的な行動力の〇期が漁業者の〇〇だと思う。各自のより広い裁量が必要だと思う。

流域自治体が出席したことは、大変有意義であったが、河川管理者である国・県（国交省）が参加しなかったのは大変残念でした。地元自治体、市民だけでは河原が雑木林等で荒れておりゴミ収集もままなりません。より適切な河川管理を望みます。今の川は、人が近づけない。人の気持ちが特に中流域は河川から離れている。川ゴミは、ダムの補足分も含めて解析すべきではないか。

ゴミを捨てない・ゴミを捨てさせない。教育・行政の見直し必要かも？

色々なめんで勉強になりました感動しました。外国船のゴミ対策は！！

<シンポジウムや海ごみに対する要望・希望・期待・思い・質問・提案など②>

住民1人1人が意識を持つことがまず第一歩だと思います。たとえば蛇口をひねれば水が出る、これはどうして出るのか。上流域の環境が良くないとダメで、下流域の人が中・上流域の環境の状態のよいことが大切ということへの思い。

河川流域内に自治体ごとにスクリーン設置してモニターで流下ゴミを把握したらよいと思います。海沿岸住民も投捨ないこと。島には自動車、電器製品も捨ててある。漁業者からの発生プラスチック等は処理して下さい（魚臭、トロ箱等）発生源ゴミも分解するものを使用する。一番にしなければいけないことは河川流域の森林・山・田畠を守り育成していくことが大切である。

川の下流の住民であるが、川の岸にあるゴミ拾いを積極的にやる必要を感じた。

この様な横断的なイベントは今後の活動のきっかけとなるので継続的に実施して下さい。

回収システムをぜひ瀬戸内海を囲む形で作ってほしい（漁業者取上→行政受入） モラルの低下が問題。学校教育でゴミを捨てない運動をしてほしい。大人に対しては、罰金などもあって良いのではないか。

海のそばで汚れて、ゴミが流れているのを目の当たりに見て、きれいな海が理想です。こんなシンポジウムがたびたびある事を願います。海のゴミ、一般のゴミも一人一人の認識が家庭からゴミの出し方を注意しなくてはと思った。東ちづるさんの講演に、目からうろこ。対等、人は皆死ぬ、心に命じます。

海ごみについて良い勉強をさせて頂きました。海から離れているためもあって、日常直接的に感じずにいました。もっともっと市民がこのことについて知ること、関心をもつことの大切さをと思いました。そのため手立てを考えないと。今日のシンポジウムも関係者、よりも一般市民が聞けたら・・

目に見えるゴミだけでなく、川の水質調査も定期的に行ってほしい。我々市民の自覚が必要。

東ちづるさんの講演とてもすばらしかったです。多少ボランティアにかかわっていますので心すべき事を教えられました。環境税として住民が負担して海ゴミの処理をしては。

高梁川のクリーン一斉行動に参加したが、そういう機会を活用してのPR活動をもっと強化したら良いと思う。

海ゴミの問題は現実において見のがしてはならない！ 全体の問題として解決しなければならない！

もっとわかりやすくして子供達に伝えて行く必要があると思いました。大人達がゴミやいろんな問題について考えている事も伝えて行く。ゴミ回収にペットボトル、食品トレーも入れていく。分別の種類を増やしていく、

大変有意義なシンポジウムであった。特に女優東ちづるさんの講演は感動的な内容であった。今後ともこのような環境シンポジウムを開催してもらいたい。生活排水による水質状況（河川・海・湖沼等）21世紀が水の問題が大きくクローズアップされる。生物の生命水となる。水は重要である。水浄化技術で浄化槽の利点を積極的に活用すべきでは。下水道整備は地方財政と国財政を圧迫している。この現状をよく考えた施策を。少子高齢化社会になっていく将来的 水質改善対策としての下水道整備、農集排水処理施設は多額のコスト（ハード面、維持管理コスト）が次世帯に負担をかけることとなるので環境省が主体的となって省壁を取り除いての協力なリーダーシップを取ってもらいたい。海ごみの処理に対する今後 市民（私も含めて）に対するごみを河・海に捨てない啓発運動 行政では予算を（海ごみ改修ステーション設置、処理コストについて）取って強力に推進することだと痛切に感ずる。

意義あるシンポジウムだったと思います。災害（洪水）時のゴミが大半だと思うので、回収処理は 国・中国・大阪・環瀬戸内海全ての人を含んでシステム、体制づくりが早急に必要だと思います。

河川の流れは上流から、又ごみは上流から流れている様に感じられたし実際に流れ出ていると思います。これからは地域住民の意識を変えていくことが必要ですし、ごみを出さないという努力をするべきだと思います。

<シンポジウムや海ごみに対する要望・希望・期待・思い・質問・提案など③>

今日のテーマは一団体、一自治体、一地域では絶対出来る事ではありません。一人一人が自覚をもって取り組まないと成功出来ないと痛感致しました。一人一人の力を集結して行きたいと思います。

感想としてはこの場に出席の方は理解者と思う。意見としてこの現状は農林漁業関係議員に1度見せる。又漁業者と観光釣船は同業者なので釣人はごみを捨てているが、この様な状態については反省がない、又は日本海上では国外からの流出が今だ止まってない以上を誰が判断をするのか。特に国外の通行船よりの不法投棄が多い。

海辺のゴミは一般の人にも取り除く義務がある。海位であるから一般人に入るなどの声有り。

高梁→玉島→海 この流域で溜川が問題だと思う。対策案はないでしょうか？

海底のゴミについてあらためて見識を深めました。レジ袋が余りにも目立ち過ぎます。全国一斉にレジ袋有料化を持っていきたいと思います。便利さを優先するビニール袋は海底のゴミに比べればゴミ減量化と共に早急に進めなければ大変なゴミとなりそうで心配です。

①基調講演の東ちづるさん、よかったです。②パネルディスカッションはもうちょっとデータ不足。③社会全体で環境モラルが必要。④〇〇の沖を埋立てて海のゴミを集めて埋める 資料提供したい（一部解読不可）

川と人間の距離が遠くなった。「川の日」が作られたので川に親しむことがごみを少なくし、川を大切にすることになる。したがって「川の日の啓蒙」を積極的につくって欲しい。（一部解読不可）

①東ちづるさんの「ボランティア」の話はよかったです。②伊東市長の上流での水源涵養林の植樹はよく考えないとだめ。富村に岡山市が植えた杉は手入れがされず、風倒木になっている。③レジ袋は条例で有料化し、海ゴミ処理の費用にする。④環境税は必要。企業等発生源から取るべき。⑤環境省は国交省、農水省と協力して知恵を出してもらいたい。

玉島で一つでも多くのシンポジウムをひらいて下さい！！

国すら回収せんものを何故漁師に捨わせるのか。本当に海ゴミが問題なのならもっと国が積極的に回収しなさい。

漁業者のごみ等につういても、事実を説明すべき。台風の前に漁具が流れ出さないようにする等、対応が必要。また、漁業者のごみのみ無料ということで海底ごみと産廃とをきっちり分けるのか？

とても有意義でした。もっと多くの人達が参加できる様に啓発しなければなりませんね。

環境問題、大切なことです。この会があることをつい最近知りました。宣伝して、もっとたくさんの人の関心を呼び起こすことが必要ではないでしょうか。

海ゴミの回収に関しては、もっと行政が立ち入るべきだ（金銭の面においても）

<シンポジウムに対する感想>

海の底まで目が行き届かなかつたが年に2回春と秋に高梁川の川原の清掃は福祉協議会主催で行われている。周辺住民としてボランティア清掃に参加して、つりの道具のゴミや空き缶をたくさん拾っている。つりに来た人が持ち帰らないからだと思う。ビニールやナイロンは土にかえらないので持ち帰ってほしい。重油流出のため黒い油にまみれた水島をニュースで見て心を痛めたこともある。環境問題はみんなの課題だと思った。

岡山市に計画されている産廃処理場建設に反対活動をしています。何か得る事があればとの思いで参加しました。私達の活動が一人でも多くの人に知つてもらえたたらと思います。ゴミ問題は海も山もありません。皆の問題です。一緒に考えましょう。皆様のお力を借りたいです。よろしくお願ひします。

全県民の意識改革が必要である。

シンポジウムに関係の人達の努力の賜物ですね。ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

今年8月までの仕事が魚市場関係だった為 海が汚れて魚がとれず漁師の人達が困っているのを知っていました。家の近くに高梁川の河川敷があり、散歩に行ってみると食べかすとか生活用品などが捨てられています。一人一人の道徳心だと思います。

市長が熱心であることは、非常によい。

今回はゴミが中心のシンポジウムでしたか？ 目に見えない水の質も気になります。家庭排水には気をつけているつもりですが。

自分達一人ひとり気をつけなければいけない事

環境カウンセラーですが5R-3R運動以外にこうしたゴミ問題を考えねばと思います。日本には「水に流す」と云う諺もありますが日本人の心意を変えねばなりません。上流がよくても下流が困っている〇〇！ 水ダムを造るよりゴミを集めるダム様装置を〇〇に設ける。子供大人の更なる啓発。掛け声ではなく〇〇を！（一部解読不可）

<自発的な活動に対する決意>

レジ袋はなるべくもらわないようにしているが、これからも努めたいと思った。

海の環境を守るために川から守っていかなければならないということがわかってよかったです。ゴミを捨つといった自分でできることをしていきたい。

ゴミを無責任に捨てないようにしようと思いました。

環境問題だけでなく、意識としては理解できても実際の行動に反映されない（行動に結びつかない）ことが多いですね。「仕方ない」で済まないで、自分でできることからしようと思います。

ボランティアを通しての話のまとめ方に感動しました。心してゴミに気をつける様にしたい。

ボランティア=奉仕 平等=対等 じゃない事なかなかむづかしい意味ですね、人間1人1人の気持ちの違い 重く考えないといけないと思います。海の幸にとっていかに川から流れる水が大切かよくわかりました。とにかく1人1人がゴミを捨てない・流さないように意識改革をしないと

良い話を聞きました。私達一人一人がごみに気を付けなくてはと思いました。

行政、企業、市民がいったいになって根気よく、ゴミに取り組むことが必要だと感じました。

環境省主催のこのようなシンポジウムが開かれたこと、とても評価したいと思います。民間の団体でも私たちの大切な水を調査していますよ。例えば倉敷医療生協の環境公害委員会でも10年以上高梁川の水質調査を5ヶ所ぐらいでしています。みんなの意識を高めることが一番大切ですね。ありがとうございました。これからも3R運動にもがんばりたいです。

市民とのつどいをもっと回数を定期的にふやして欲しい。海生物への被害が心配になった。美しい景色（砂浜がよごされ、海での海水浴で子供達が心配）海への関心をもっと持って、ごみを海に捨てない、川に捨てない運動とごみ拾いの活動をしよう。

住民の一人として、もっともっと感心をもっていくことが大切であると思った。

身のまわりの環境について案外無頓着な人が多い。モラルの退化が主な原因と思う。海に山に河に目の届かないところはごみの山である。投げやり的なものの考え方、無頓着なもの考え方、道徳教育もしっかりやりたい。昔はほんとに綺麗であった食生活が向上すればする程環境が悪くなる。人間は今立ち直らなければ人間沈没します。モラルを高めましょう。

環境大臣の山・川を守る事が海を守る事につながるとの御挨拶。我々の住む生活環境、地球を守る事の大切さを思います。現在私達の住む旭川の上流に民間の最終処分場の設置が決定される所まで来ています。自然の山・川を守り環境破壊につながる産廃処分場にぜひ国・県・行政の方々との再説の正しい御理解を求めます。子供達の未来に豊かな自然をぜひ残してやりたいと思います。東ちづるさんの基調講演に深い感動。一人一人の働きが大きな輪につながることを思います。

環境を悪くした我々が、子孫達の為にも我々全員で環境を良くする努力をしましょう。

海のごみの大部分が河川から入ってくる生活ごみであるということを知りました。確かに、自宅前の河川にも多数のごみが見られます。台風などで増水すると上流からのごみがあちこちに残っています。これらのごみがすべて海に集まると思うと申し訳ないと思います。海のごみのことを上流・中流に暮らす人々にも知ってもらって、ごみの分別処理と清掃に協力をていきましょう。

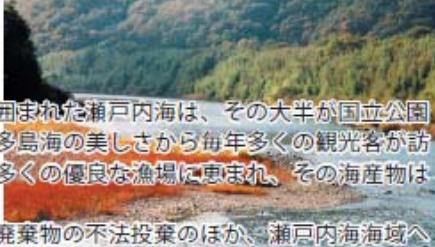
# 『うみ・まち・やま』シンポジウム

高梁川がむすぶ  
「海ごみ」から美しく豊かな瀬戸内海を取り戻すための



## <趣旨>

中国、四国、近畿及び九州に囲まれた瀬戸内海は、その大半が国立公園に指定されており、日本有数の多島海の美しさから毎年多くの観光客が訪れています。また、瀬戸内海は多くの優良な漁場に恵まれ、その海産物は全国各地に出荷されています。



しかし、近年、海岸周辺への廃棄物の不法投棄のほか、瀬戸内海海域への生活ごみ等の投棄により、漁業操業への被害が顕在化するとともに、海域内の生態系への影響や海産物の安全性への懸念が生じています。

そこで、環境省中国四国地方環境事務所は、これまで行ってきた調査・検討結果や海ごみ回収の先進的事例を発表するとともに、海・町・山に関わってこられた方々と参加者を交えて意見交換を行い、自然の営みと海ごみについて考えるシンポジウムを開催します。

平成20年 12月21日(日)  
13:00~16:30 (開場:12:30)

## 倉敷市玉島公民館大ホール

(岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-10-5)

- ◇ 参加費: 無料
- ◇ 定員: 300名

(先着順。裏面の申込要領をご覧ください)

### ● プログラム

#### 1. 報告会

- ・環境省が実施した瀬戸内海の海底ごみ調査の結果発表
- ・先進的事例(尾道市の取組)の紹介

#### 2. 基調講演

『泣いて笑ってボランティア珍道中  
～故郷の海に想いをよせて～』  
講演者: 東 ちづる

#### 3. パネルディスカッション

コーディネーター: 田中 勝(鳥取環境大学教授)(岡山大学名誉教授)

パネラー: 伊東 香織(倉敷市長)

: 近藤 隆則(高梁市長)

: 磐部一作(日本福祉大学予防医療学部教授)

: 柳 哲雄(九州大学应用力学研究所所長)

: 本田 和士(日牛利漁業協同組合代表理事組合長)

: 塩飽 敏史(財團法人水島地域環境再生財團研究員)

: 池田 鮎一(環境省中国四国地方環境事務所近畿)

#### 《展示コーナー》

海ごみアート・瀬戸内海にすむ生き物など

主催 ● 環境省中国四国地方環境事務所

後援 ● 岡山県、岡山県教育委員会、倉敷市、倉敷市教育委員会、高梁市、(社)瀬戸内海環境保全協会